

第2部 ボランティア・市民活動の推進

I 令和4年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

令和4年度も少なからず新型コロナウイルスが様々な市民活動に影響を残した年になりました。しかし、徐々に活動を再開する団体が増加し、市民活動支援センター（以下、センターという）の「はばたき」スペースの利用も増え、「調布チャリティーウォーク」や、「えんがわフェスタ」、「まち活フェスタ」等センターの関わる主な事業も従来に近い形で開催ができました。

「2018～2022 市民活動支援センター中長期運営方針」も最終年を迎え、運営委員会で5年間の振り返りを行い、その成果と課題の整理を行うとともに、次期の「中長期運営方針」の策定へとつなげていくことができました。

センターとしては、「中長期運営方針」に基づき、多様な個人・団体・企業等と協働しながら、市民に開かれたセンター運営、柔軟な支援の継続に努めることができました。

センターの広報誌「えんがわだより」も令和5年6月で、200号の発行となるとともに、次期「中長期運営方針」の中間年に当たる2025年には、センターも開館20周年を迎えることとなります。様々な経験と歴史を積み重ねながら、多くの市民の皆様とともに、多様な活動を引き続き支援していきます。

第2 重点項目の総括

1 中長期運営方針の5本の柱に対応したセンター運営

①「人材の発掘及び育成」では、きめ細やかなボランティア体験事業の推進、市民公募も含む多様な次期運営委員の確保に取り組みました。②「行き交う情報の有効活用」では、公式Twitterの発信の充実や、200号に向けたえんがわだよりの改訂の検討を行いました。③「えんがわファンドの活用」では、6団体に助成を行い支援しました。④「パートナーシップの強化」では、えんがわだよりの取材や再開された事業などを通じてつながりを深めることができました。⑤「災害時の支援」では、「災害ボランティア養成講座」の実施、「調布市総合防災訓練」への参加内容の拡充ができ、調布市との災害時の協定の見直しの協議を継続しています。

2 次期「中長期運営方針」を策定

運営委員会で協議を行い、新たな「2023～2027 市民活動支援センター中長期運営方針」を策定することができました。

II 個別事業

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	市民活動支援センターの受託・運営			市	○

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	ボランティア活動推進	会寄雑 基	市		○

1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

- 14人体制で運営委員会をスタートしたが、12月に1人の退任があり13人体制となった。
- 地域で話題の居場所から取組の好事例を見つけ、ノウハウを見出すための「居場所探訪」や、子育て世代の居場所を作る取組「おはなしほっとカフェ」を立ち上げ、実施を継続している。
- 各コーナーとの連携強化のためのコーナーの職員が交代で運営委員会に参加し、運営委員との顔の見える関係づくりが進んだ。
- 次期運営委員の選任にあたり、市民公募委員の募集を行い4人の市民公募委員を選任し、市民活動団体等の委員も含め、18人の運営委員を選任した。

実績等

(1) 市民活動支援センター運営委員会 任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

氏名	選出区分	主な活動、所属等
壽賀 一仁（委員長）	市民公募	公募委員・一般社団法人あいあいネット
嶋田 浩一（副委員長）	市民活動団体	こくりょう子ども食堂わいわいプロジェクト
横山 真理（副委員長）	市民活動団体	こんぺいとう子育てひろば
水田 征吾	ボランティア	個人ボランティア
村上 むつ子	市民活動団体	Global 調布！
平澤 和哉	市民活動団体	NPO 法人ちょうふこどもネット
児島 秀樹	市民活動団体	グッドモーニング調布！ ※都合により12月で退任
梶井 文子	関係機関	東京慈恵会医科大学医学部看護学科
長浜 洋二	学識経験者	モジョコンサルティング合同会社（代表）
佐々木 真紀	ボランティア	個人ボランティア
原島 秀一	市内企業	税理士事務所
熊谷 紀良	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
萩原 治	行政関係	調布市生活文化スポーツ部 協働推進課長
高木 直	社協関係	市民活動支援センター長

(2) 令和4年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

第1回	4月21日(木)	<p>【審議事項】</p> <p>令和3年度市民活動支援センター事業報告(案)について 令和3年度市民活動支援センター資金収支決算報告(案)について</p> <p>【共有事項】</p> <p>令和4年度えんがわファンド選考委員の決定について 市民活動支援センター中長期運営方針の到達度の確認について えんがわフェスタの開催日について 今後のスケジュールについて 各グループの進捗について</p> <p>【協議事項】</p> <p>今年度取り組みたいことの検討</p>
第2回	5月19日(木)	<p>【報告事項】</p> <p>令和3年度市民活動支援センター事業報告(案)について 令和3年度市民活動支援センター資金収支決算報告(案)について 各グループの進捗について</p> <p>【協議事項】</p> <p>中長期運営方針を踏まえた前回アイデアの整理 えんがわフェスタ企画の検討</p>
第3回	6月17日(金)	<p>【協議事項】</p> <p>えんがわフェスタの企画内容と方法について</p> <p>【報告事項】</p> <p>えんがわファンドの選考結果について 各グループの進捗状況 ちょうふチャリティーウォークについて サマーボランティアの企画について Mission in Chofu について</p>
第4回	7月20日(水)	<p>【協議事項】</p> <p>えんがわフェスタの企画内容と方法について 運営委員の市民公募について</p> <p>【報告事項】</p> <p>各グループの進捗状況 ちょうふチャリティーウォークについて サマーボランティアの企画について 災害ボランティア養成講座の開催について</p>
第5回	9月14日(水)	<p>【協議事項】</p> <p>次期運営委員の在り方と市民公募について えんがわフェスタについて</p> <p>【報告事項】</p> <p>各グループの進捗状況 ちょうふチャリティーウォークについて</p>

		サマーボランティアについて
第6回	10月25日(火)	<p>【共有事項】 えんがわフェスタについて</p> <p>【協議事項】 次年度予算への希望について 次期中長期運営方針の策定について</p> <p>【報告事項】 各グループの進捗状況 ちょうふチャリティーウォークについて 次期運営委員の市民公募について 拡大センター長会議について</p>
第7回	11月17日(木)	<p>【協議事項】 えんがわフェスタと居場所探訪について</p> <p>【報告事項】 各グループの進捗状況 次期運営委員の市民公募について まち活フェスタについて 次期中長期運営方針の策定と次年度事業計画について</p>
第8回	12月16日(木)	<p>【協議事項】 次期中長期運営方針の柱となるキーワードについて 令和5年度事業計画への希望について</p> <p>【報告事項】 市民公募の応募期間延長について 各グループの進捗状況 まち活フェスタについて</p>
第9回	1月12日(木)	<p>【協議事項】 令和5年度事業計画(案) 令和5年度予算(案)</p> <p>【報告事項】 次期運営委員市民公募の進捗状況 各グループの進捗状況 まち活フェスタについて</p>
第10回	2月14日(水)	<p>【協議事項】 現中長期運営方針の評価 次期中長期運営方針(案)</p> <p>【承認事項】 令和5年度事業計画(案) 令和5年度予算(案)</p> <p>【報告事項】 次期運営委員市民公募の進捗状況 各グループの進捗状況</p>

		まち活フェスタについて
第11回	3月17日(金)	<p>【承認事項】</p> <p>えんがわファンド選考委員について</p> <p>次期中長期運営方針(案)について</p> <p>【報告事項】</p> <p>現中長期運営方針の評価</p> <p>次期運営委員について</p> <p>各グループの進捗状況</p> <p>まち活フェスタについて</p> <p>【その他】</p> <p>任期終了にあたって各委員から一言</p>

分析・課題

- 中長期運営方針の最終年度にあたり、運営委員会の中で振り返りを行い、次期2023～2027中長期運営方針を策定し、第11期の運営委員会へのたすき渡しとした。
- 次期運営委員の選任にあたっては、多様性やジェンダーバランスを考慮し、様々な角度からの人選を行った。また、開催日程も時間帯を固定せず、年間予定を事前にスケジューリングした。

2 市民活動支援センター利用者会議の開催

結果の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、利用者を集めての会議は実施せず、利用者アンケートを行った。

分析・課題

- アンケートは180部配布し、123人の利用者から回収した。
- アンケートからは、フリースペースはばたきが「安心して過ごせる」や、「仲間との居場所」というご意見を多数いただき、回答した全ての方が「快適だ」と回答した。
- センター活動スペースはばたきが、無料で集まれる場所として、活用されていることや、多彩な団体が利用していることで、出会いの場としてとても意義のある場となっている。
- 多くの団体が活動を再開し、継続して活動している。つながりを絶やさぬよう、工夫を凝らし仲間との関係を維持している団体が多い。
- 団体の代表が高齢なことも多く、後継者育成の必要性を感じる。
- 当面の活動に心配がない団体にも、積極的に接触し、常に寄り添えるセンター運営に努めたい。
- 平均年齢の高い団体が多数の割合を占める。若年層、中年層世代をターゲットとした啓発や新規団体発足等の取組みも検討したい。
- 結果として、3年連続でのアンケート形式(非対面)での利用者会議となったが、コロナウイルスも5類に移行することから、来年度は対面式の利用者会議を開催したい。
- 引き続き、日ごろの業務の中で利用者の意見を集め、常に寄り添ったセンター運営に努めたい。

3 市民活動支援センターサポーター会員制度

結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する「えんがわファンド」の原資として活用した。
- 令和5年度は、活動を控えていた団体の再開が見込まれることから、サポーター会員加入・継続のご案内を、3年前の会員まで広げて案内した。

実績等

加入口数	令和4年度	令和3年度
一口／3,000円	64口	76口
	192,000円	228,000円

新規・継続内訳	令和4年度 実数(人)	令和3年度 実数(人)
新規サポーター	1	1
継続サポーター	54	58
匿名	0	1
合計	55	60

サポーター 会員数	令和4年度 実数(人)	令和3年度 実数(人)
団体	38	39
個人	17	20
匿名	0	1
合計	55	60

分析・課題

- 昨年引き続き、継続サポーター会員への通知やホームページ、Twitter等を活用し、共感者を増やすための試みを模索したが、サポーター数、加入口数、新規、継続サポーター数いずれも減少となった。
- 活動を終了した団体は、解散と同時にサポーター会員も終了するケースが多い。活動スペースはばたきの優先予約の特典が加入の動機であることが多いため、サポーター会費の目的を伝える啓発が必要。
- さらなるPRや広報媒体の工夫、2年間実施できていない企業等への周知も積極的に行う等、実績を増やすための取組を行っていく。

4 市民交流事業の実施

(1) えんがわフェスタ 2022 の開催

結果の概要

- 市民活動支援センター運営委員会で協議し、イベントを実施した。

実績等

名 称	えんがわフェスタ 2022
目 的	①えんがわフェスタを通じて、社会参画のきっかけづくりを行い、活動者の裾野を広げるため。 ②地域で求められている居場所や必要な関わりについて、市民とともに考える

	ため。		
日 時	令和4年11月6日(日)10時~16時30分		
会 場	子育てに関わる居場所 青少年に関わる居場所 多世代に関わる居場所		
参加者数	12人		
内 容	<p>第1部 子育て、青少年、多世代に関わる居場所の3つのグループに分かれ、2~3カ所の実際に地域で活動している居場所見学に訪問した。</p> <p>第2部 市民活動支援センターで集合し、それぞれのグループ内での振り返りと全体でのシェアを行った。</p>		
協 力	青少年ステーションCAPS、ほんのもり、POSTO、1000+1BOOKS(センチブックス)、しばさき彩ステーション、こくりょう子ども食堂わいわい、FUJIMILOUNGE、こども食堂かくしょうじ		
主 催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

分析・課題

- 昨年度に引き続き「居場所」をテーマに開催した。今年度は初めてセンターを飛び出し、実際の地域に市民とともに出て行って学ぶ企画を実施したが、参加者から非常に好評であった。実際の場を見学することで、初めて訪れた参加者も具体的なイメージができ、多くの気付きを得ることができた。
- 見学先のボランティアとして参加したいという反応が多く、その場で実際につなぐことができたこともこれまでには無かった成果であった。

(2) 第9回調布まち活フェスタ

結果の概要

- 市民活動団体や活動している個人の方々15人に、実行委員に参画していただき、市報等で広く出展団体を募集した。出展団体は、29団体で、うち8団体が初参加であった。
- 開催に向けて、準備会を1回、実行委員会を6回、出展者会議を1回開催し、事業実施に向けての準備と出展団体への説明の場を設けた。
- 4年ぶりの会場開催であり、戸惑う場面もあったが、実行委員、出展団体の皆様のおかげで無事成功できた。

実績等 <第9回調布まち活フェスタ・当日>

開 催 日	令和5年3月12日(日)10時~15時
会 場	調布市市民プラザあくろす(配信拠点)
来場者数	約1,500人
参加団体数	29団体
協 力	Withgrow・商工会青年部(広報、インスタ配信等)
協賛企業	今年度は協賛企業の募集は行わなかった。
実行委員	15人
主 催	第9回調布まち活フェスタ実行委員会

共 催	調布市・調布社協（市民活動支援センター）
目 的	多くの市民に多彩な市民活動に触れてもらう機会とするとともに、市民活動団体同士の交流の場として、市民活動の活性化を目的とする。
実行委員会	6回開催
出展者会議	1回開催
内 容	<p>○実行委員会企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagram連動企画「あなたの映えを教えてください」 ・みんなでチャレンジ「調布カルタ」～バルーンランドへようこそ～ <p>○あくろす館内出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>コミュニティーナース（初参加）</u>・白百合女子大学マスールハローキティボランティア・フットの会・<u>みんぐるりんご（初参加）</u> ・<u>再生プラスチックステーション pebbles（初参加）</u>・ぬくもり society・<u>学生 NGO ALPHA（初参加）</u>・くぬぎ山漁友会（鉄道模型）・調布・桜いきいきクラブ・電気通信大学 鉄道研究会 ・ダブリン・ラボ・<u>電気通信大学 天文部（初参加）</u>・地区協議会、調布市自治会連合協議会・調布市青少年ステーション CAPS <p>○国領駅前広場テント出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター ときわぎ国領・<u>調布0円マーケット（初参加）</u>・特定非営利活動法人フードバンク調布・ボーイスカウト調布第3団・調布市商工会青年部・調布市社会福祉事業団ベーカリー&カフェ「ほっとれーる」・<u>アネスト出版（初参加）</u>・調布市協働推進課「ちょみっと」 <p>○ステージ出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市立第三中学校吹奏楽部・ふらわーまうんてん（漫才）とその仲間達・青少年ステーション CAPS（中学生バンド）・<u>MUSa dance as an academic（初参加）</u>・混声合唱団「七福神」&調布市立第五中学校合唱部

分析・課題

- 4年ぶりの会場開催で、出展者、参加者からも「この形で実施できてよかった」、「楽しめた」、との声をいただいた。
- 新規の出展団体が8団体あった。新規団体の参画により、新たなつながりの創出ができた。しかし、出店団体募集の周知方法についてご意見も届いており、より広く周知するための工夫が必要であると感じた。
- 次回の開催に向けて、国領駅前広場の活用ができなくなる可能性があるため、主管課である協働推進課と協議し、実行委員会で検討を行う必要がある。

5 えんがわ文庫の運用

結果の概要

- 令和2年度から準備を始め、「誰でも気軽にふらっと立ち寄れる本のある空間」をコンセプトに、令和3年11月1日にオープンした。
- コロナ禍で大きな周知は行ってこなかったが、開設から1年が経過し、えんがわ文庫を目的とし

た来館者が増えてきている。特に子ども向けの絵本を目当てに、これまでセンターの来館者としては少なかった子連れの家族利用が目立っている。

○26人の棚主の多彩な書籍の配架やイベントの開催等によって、新たなコミュニティスペースとして定着しつつある。

実績等

○調布サマーボランティアで、学生2人を受入れ。夏休みの期間限定棚主体験に加えて、掲示物や装飾の作成、他の棚主との交流を図った。

○えんがわ文庫棚主懇談会を月1回開催し、えんがわ文庫の活性化や棚主の交流促進について意見を出し合った。

○棚主主催のイベントを開催し、えんがわ文庫を拠点とした地域住民との交流に取り組んだ。

開催日時	タイトル	参加人数
6月25日(土)	親子の英語絵本おはなし会	7人
6月27日(月)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	9人
7月24日(日)	親子の英語絵本おはなし会	8人
8月27日(土)	親子の英語絵本おはなし会	8人
9月19日(月)	親子の英語絵本おはなし会	10人
9月26日(月)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	4人
10月22日(土)	親子の英語絵本のおはなし会	13人
10月31日(月)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	2人
11月5日(土)	僕が東京で蜜蜂を飼う理由	5人
11月8日(火)	しつもん読書会	5人
11月19日(土)	親子の英語絵本のおはなし会	8人
11月28日(月)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	2人
12月10日(土)	本を持って集まろう	4人
12月10日(土)	親子の英語絵本のおはなし会	11人
12月26日(月)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	2人
1月21日(土)	親子の英語絵本のおはなし会	11人
1月23日(月)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	2人
2月23日(木)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	2人
2月26日(日)	親子の英語絵本のおはなし会	6人
3月11日(土)	いざという時のお話 ~私のイチオシ缶詰を持ち寄って~	5人
3月21日(火)	絵本いっぱい楽しみいっぱい	3人
3月26日(日)	親子の英語絵本のおはなし会	9人
		計 136人

○棚主同士の交流を促進するため、不定期で棚主交流会を開催。推し本紹介等を行って交流を深めた。

○えんがわ文庫のオープンから1年が経過し、さらなる活性化と多様性を生み出すため、新規棚主の募集を行い、令和4年度3月から令和5年度4月にかけて、計6回の棚主説明会(令和4年度開催は3回)を行った。

分析・課題

○棚主懇談会や交流会の継続的な開催により、様々なアイデアや意見が出るようになってきた。
また、棚主とセンターの関係性が深まり、積極的に関わる棚主も増えてきている。今後はこうした棚主を中心に、より一層、棚主主体の運営を行っていききたい。

6 ボランティアコーナー（ランチ）の運営

結果の概要

○身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。
○地域の方々によって運営されている野ヶ谷の郷を含め7拠点のランチを運営しており、小島町コーナー（月～金）、西部コーナー、染地コーナー（火～土）の3拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の4拠点が週3日（火、木、土）開所となっている。

(1) 小島町コーナー

①ボランティア活動室利用者会議の開催

実績等

○活動室のルール再確認、活動室の定期利用、棚等の希望を確認し、団体間の調整を行った。 ○
令和3年度に続き令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議は開催しなかった。
令和5年度の希望調査については、活動室を利用している25団体に書類にて確認を行った。

結果の概要

○活動室の利用希望日について、団体間の調整を行った。

分析・課題

○令和4年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、人数や活動時間を縮小するなど慎重に行動する団体がある中、人数制限等の緩和を受け、徐々に活動を元に戻すところが増えてきた。
○これまで、午前・午後と通して活動していた団体は時間を短縮し、一日を通して活動する団体は無かった。

②スマホ講座

実績等

開催目的	スマホ初心者の高齢者を対象に実施。 スマホに触れ、体験することで、その楽しさに気づき、スマホを利用する抵抗感を軽減する。
開催日時	令和4年6月2日（木）14時～16時
会場	総合福祉センター2階 202・203会議室
内容	スマホの基本とLINE体験
参加者	19人

結果の概要

- ソフトバンク株式会社が主催する「情報通信機器（スマホ等）の普及」の事業の協力のもと、実施した。
- スマホを持っている方が多い中、同じ体験をするため、開催側が用意した同じ機種で、体験してもらった。同じ機種を持つことで、混乱なく進めることができた。

分析・課題

- あらゆる情報が、スマホで手軽に入手できる中、高齢者は、情報難民となりつつある。高齢者の孤立防止のためにも、スマホを利用することに慣れ、抵抗感を軽減していくことが必要と考える。
- 令和3年度に講座を1回開催したが、「スマホに親しむ」という目標を達成することが難しかったため、令和4年度に2回目の講座を実施することを決定した。内容は1回目とほぼ同じ内容で開催したが、講座終了後も「交流会」形式で、継続し「スマホに親しむ」機会を提供できるよう努めた。

③スマホ交流会

開催目的	2回目のスマホ講座の修了生に、アンケートを取り、その中で、継続して学ぶことを希望した方々を中心に、月に1回の交流会を開催していくこととした。皆で交流を図りながら、スマートフォンの操作について学び、スマートフォンを利用することに抵抗感をなくしていくようにする。
開催日時	毎月第4水曜日 10時～11時
会場	総合福祉センター ボランティア活動室
内容	スマートフォン操作の学習、交流
参加者数	毎回5～6人

④地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

実績等

- 地域福祉コーディネーターが担当している地域のサロンを一部コロナでお休みしているところを除き、一緒に見学参加した。また、担当地区の地域包括支援センター「ちょうふ花園」が「猿田彦珈琲」とコラボで開催している「ケアカフェ」の見学にも出かけた。
- 「スマホ教室」2回目を共に企画、開催した。また講座参加者の中から、継続を希望するメンバーで、毎月交流会を開催し、その内容については、地域福祉コーディネーターと、毎回相談しながら進めていった。
- 前年度民生児童委員との関わりの中で、要支援者の見守りの為、新たに立ち上がった手工芸に関わる活動団体の支援、要支援者の見守りを、地域福祉コーディネーターと連携し行った。
- 第6次地域福祉活動計画の担当職員の打ち合わせ内容について、その情報を共有し、地域住民が参加しての会議内容についても、情報を共有していけるよう確認を行った。

結果の概要

- 令和3年度に引き続き、小島町コーナーエリアを担当する地域福祉コーディネーターと連携し、より多くの取組に参加することができた。
- 地域福祉コーディネーターとの連携の中で、小島町・布田エリアの民生児童委員とのつながりを持ったり、地域福祉活動計画策定への関わりを持つことができるようになり、地域の課題を把握する機会ができた。

分析・課題

○地域課題にも今後、より関わられるよう、地域福祉コーディネーターと連携を強化していきたい。

(2) 菊野台コーナー

①第29回菊野台ボランティアまつり

実績等

○新型コロナウイルス感染拡大が収束しておらず、開催しなかった。

②菊野台地域のつどい（小地域交流事業）

実績等

○前実行委員との茶話会を1回行い、菊野台地域の変遷をたどるスライドトークを、前実行委員を対象に、令和5年4月1日に開催することになった。

③菊野台ボランティア連絡会

実績等

○12月に菊野台コーナーを拠点とするボランティア団体の代表が集まり、令和5年度の菊野台ボランティアまつりの開催について話し合い、時間を短縮して開催することになった。

④スマホ de サロン

実績等

開催目的	高齢者が情報を得、コミュニケーションをとる手段として、スマートフォンの活用ができるように、気軽に相談できる場を作る。ボランティアと一緒に学ぶことで、交流の場となることを目指す。
開催日時	毎月第2、第4火曜日
会場	菊野台地域福祉センター 第2集会室
内容	スマートフォン操作の相談
参加者数	毎回8~10人

結果の概要

○菊野台コーナー主導で始まった活動だが、ボランティアによる安定した活動が続いたことで、団体として登録することができた。地域支えあい推進委員が行った「スマホボランティア養成講座」に参加し、受講者がボランティアとして加わった。

⑤手話タイムちょうふ

実績等

開催目的	障がいのある人を特別な存在としてではなく、身近にいることを知ってもらいたい。誰でも気軽に参加できる、手話を用いた交流の場を作りたい。
開催日時	毎月第2土曜日
会場	菊野台地域福祉センター 第2集会
内容	手話を用いた交流

参加者数	毎回 10～15 人
------	------------

結果の概要

○障がいを持つ子どもの母親から相談があり、聴覚障がいや手話を身近に感じることができる場づくりを継続して支援した結果、団体として登録することができた。

⑥地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携実績等

○地域連携会議 5月19日（木）、7月26日（火）、9月15日（木）、10月4日（火）、11月24日（木）、1月17日（火）、3月30日（木）

○つつじヶ丘ハイム個別相談会 6月30日（木）

○地域ケア会議 7月1日（金）、11月28日（月）、3月2日（木）

○講座「認知症予防の運動と健康チェック測定会」 11月30日（水）

○講座「終活を考える」 3月28日（火）

○三鷹市との市境にある「光源寺」を拠点に、三鷹市社会福祉協議会、地域包括支援センターとともに、終末期や見取りについて学ぶ新たな団体「げんじ螢の会」立ち上げに参加。

結果の概要

○情報を共有し、地域の課題解決へ取り組んだ。地域包括支援センターなど、さまざまな団体と連携をとることで、講座の開催、新団体の立ち上げなど、地域の中の諸問題に対して多方面から支援を行うことができた。

分析・課題

○コーナーを離れて地域の課題に取り組むことで、新たな出会いや学びの場を多く得ることができた。勤務日の変更や外出が多くなることで、コーナーを中心とした近隣の課題の掘り起こしを怠ることなく、身近な団体や活動者、住民との関係性を大切にしていきたい。

(3) 富士見コーナー

結果の概要

○コロナ禍での活動制限のストレスや不安、世間話をするために来所する人が多かった。必要があれば関係機関につなぎ、その後も声をかけ見守っている。

○富士見コーナーを拠点とした13グループのボランティア、市民活動団体、ひだまりサロンが活動した。

○感染症拡大防止の観点から、6月に予定していた地域の住民が参加できる世代間交流の場「富士見ふれあいのつどい」を中止したが、1月に富士見ふれあいのつどい役員会交流会を4年ぶりに実施した。参加者アンケートでは概ね好評で、次年度に繋がる機運の盛り上がりを見せた。

○居場所として立ち寄るシニア男性の割合が比較的多く、コーナーが地域の情報交換の場の1つとして機能している。

○『西部地域ネットワーク会議』（地域包括支援センターちょうふの里、西部公民館、民生児童委員、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、ボランティアコーディネーター）に参加し、地域の課題の共有と解決に向けての情報交換を行った。

- 野外で三密を避けて実施できるボランティア「わんわんパトロール」のPRを行った。東京都と調布市の広報に協力し、その結果ボランティア登録者が増加した。東京都「防犯ボランティアのつどい」に参加、関係作り、調布市社協の紹介も行った。
- 合同防犯パトロールは、参加団体と顔の見える関係づくり、地域の情報交換の場となっている。
- 調布市総合防災安全課の自動通話録音機貸与、特殊詐欺被害防止啓発に協力した。

分析・課題等

- ひだまりサロンが地域に増えていく中、既存のボランティアグループの統廃合がゆっくりと進んでいる。
- 見守りが必要となる高齢者が増えてきていることを地域住民自身が真剣に捉え、安心して暮らせるまちづくりのために、住民の手による自助活動や集う場づくりの必要性を感じる。
- 地域包括支援センター、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携をとりながら、地域全体で互いに見守りあう体制づくりに向けて、より現実に即した具体的な提案を行い、ボランティアグループとともに支援していきたい。

実績等

①令和4年度 富士見ふれあいのつどい役員会交流会（小地域交流事業を兼ねる）

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
日時	令和5年1月31日（火）18時～19時30分
会場	富士見地域福祉センター大集会室

②明治大学付属明治中学校の探求プログラムに協力

日時	11月8日（火）10時～11時
会場	富士見地域福祉センター富士見コーナー
内容	防犯活動、わんわんパトロールについて学ぶプログラム。市から防犯についての簡単な講義のあと、ボランティアが活動を説明した。生徒が質問し、ボランティアが回答した。社協は説明の補足をし、学校でグループ発表しやすいように配慮した。
参加者	生徒6人 市2人 社協1人
協力	ふじみパトロール隊 わんわんパトロール隊

③地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

- 地域福祉コーディネーターが欠員の状況であったが、子ども関連の支援を中心に地域の活動をフォローし、地域の声を拾い上げ、福祉活動の推進を支援した。

実績等

- フードドライブ、フードパントリーの食品収集や広報に協力した。
- フードバンク調布の活動周知のための広報に協力した。
- こども食堂かくしょうじや富士見あおぞら子ども食堂の運営や活動周知のための広報に協力した。

た。

④地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）との連携

結果の概要

○地域支え合い推進員との連携により、地域のニーズや課題の掘り起こし、その後のこまやかな支援に向けて、協働、協力できた。

実績等

○地域包括支援センターちょうふの里の介護予防を目的とした、地域住民で花壇の世話をする活動の立ち上げ等に協力した。

○シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」を実施した。

○富士見町の合同防犯パトロールや畑づくりボランティアの会の運営について相談を受け、支援を行った。

⑤シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」

日 時	1月31日（月）13時～15時
会 場	富士見地域福祉センター 大集会室
内 容	スマホをお持ちでない方、お持ちの方いづれも1人一台デモ機のスマホを借りてスマホの基本操作とLINEの使い方をわかりやすく無料で体験する。
講 師	ソフトバンク株式会社認定の講師
参加者	参加者22人 講師4人 社協2人

結果の概要

○昨年度、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置等の期間に開催延期したスマホ講座を今年度開催できた。次年度も開催予定。

○『ふくしの窓』のQRコードを読み、調布市社協ホームページを見る体験も盛り込んだ。

(4) 染地コーナー

結果の概要

○長引くコロナ禍にあって、地域住民の世代間交流の場として定着している「ボランティアまつり染地」だが令和3年度に引き続き開催を断念、令和5年度開催に向け検討会を5回開催した。染地地域福祉センター改修工事が終了後、4月オープンを機に「ボランティアまつり染地」から「ボランティアまつり染地 染地マルシェ」へ、若者にも興味を持ってもらえるようなおしゃれなおまつりを目指し、三役を中心に実行委員会で繰り返し議論し、アイデアを出し合い実現に向かって取り組んだ。結果、染地ボランティアまつり実行委員どうしの交流が生まれ、「ボランティアまつり染地染地マルシェ」の開催に向けた一体感が生まれた。

○8か月に及ぶ染地地域福祉センター改修工事のため、20ある活動団体の活動場所を調整する必要があった。各団体の要望を聞き取り、丁寧に寄り添った結果、1団体を除く19団体が活動場所を変えて継続することができた。

○染地地域福祉センターが改修工事期間の8か月間、市民活動支援センターに勤務することで「えんがわギャラリー」へ染地を拠点に活動している団体、個人を紹介することができた。

1月 「たま川お手玉の会 折り紙&ときどきあやとり」

2月 絵手紙ももの会

3月 「インドネシア協和国 イロイロ」「インドネシア共和国 イロイロ座談会」

4月 渡辺ご夫婦&クラフトサークル 《木彫りと小物づくり》

5月 調布 SPV&杉森地区協議会「防災について知ろう」 《写真洗浄&ローリングストック》
を提案、3月まで終了。4月以降も紹介していきたい。

○慈恵医大ボランティア論を受講している学生のボランティア体験先として、2つのボランティア団体に受け入れ依頼し、3人の学生がボランティア活動に参加した。看護師、保健師を目指す学生が様々なボランティア体験を通し、多様な経験を積んだ多くの人々と出会い、考え方を学ぶことで、視野が広がり今後の仕事に活かせることを期待したい。

○地域支え合い推進員が中心となり、地域福祉コーディネーターとボランティアコーディネーターが加わり、連携することで、新たな地域の居場所「みんなの部屋」の開所が実現した。

①高齢者の見守り《バリアフリー映画体験会》

実績等

開催目的	高齢者のゆるやかな見守り・外出の機会づくり
開催日時	①4月8日 ②5月13日 ③6月10日 ④7月8日 ⑤8月12日 ⑥9月9日 ⑦10月14日 ⑧11月11日 ⑨12月9日 ⑩令和5年1月13日 ⑪3月10日 ※2月は雪のため中止 月1回 第2金曜日 13時30分～15時30分
会場	4月～7月 染地地域福祉センター第1・2集会室 8月～令和5年3月 多摩川住宅ロー7号棟 B・C集会室
内容	様々な分野に映画に挑戦！！ リクエストに応じて
参加者数	毎回10～15人（スタッフ2人） ※コロナ禍で孤立する独居老人対象

分析・課題

○長引くコロナ禍にあって、高齢者の機能低下が著しい中、認知機能低下、持病の悪化などが気になる高齢者を引き続き見守りことを第一に考え、多摩川住宅集会室を使用して体験会を継続した。だが、残念ではあるが、活動場所が遠くなったために参加できなくなった高齢者もいる。

②高齢者のフレイル予防《シニアヨガ》

実績等

開催目的	高齢者を対象に外出の機会・運動する場の提供
開催日時	毎週水曜日 9時30分～11時00分
会場	染地ふれあいの家 大集会室
内容	基本を大切に、高齢者に寄り添ったヨガを繰り返し体験する さまざまな持病を抱えた高齢者に寄り添った指導を心がけている
参加者数	8人～12人（講師1人）

分析・課題

○長引くコロナ禍にあって、外出機会を失った高齢者の方々から「運動する機会を作って欲しい」と要

望があり、地域住民とともに立ち上げてから1年が経った。講師との関係性も深まり、それぞれ抱えている持病と向き合いながら継続できている。また、参加者同士の安否確認の場となっている。

③第25回ボランティアまつり染地（小地域交流事業を兼ねる）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

④染地小地域交流事業パートⅡ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントは中止したが、次年度に向けた実行委員会を開催した。改修工事終了後初めての「ボランティアまつり染地 染地マルシェ」を令和5年5月21日（日）10時00分～14時00分で開催予定。3年ぶりの開催となる。

⑤地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

○地域福祉コーディネーターとの連携により、地域のニーズの掘り起こしや、細やかな支援が可能となった。コロナ禍にあって孤立する高齢者を対象に、スマホに関する相談室を立ち上げることができた。

○染地パソコン教室&スマホちょっと相談室 染地

日時・内容	①4月⇒（1日・9日・22日）②5月⇒（6日・14日・27日）③6月⇒（3日・11日・24日）④7月⇒（1・9・22日）⑤8月⇒（8日・26日）⑥9月⇒（2日・10日）⑦10月（7日・15日・28日）⑧11月（4日・12日・25日）⑨12月（2日・10）⑩令和5年1月（14日・27日）⑪（2月3日・24日）⑫3月（3日） 13：30～14：30 3人 14：30～15：30 3人ずつ計6名人※予約制
会場	令和4年4月～7月 染地地域福祉センター ボランティア室 令和4年8月～令和5年3月 多摩川住宅口号棟集会室
内容	実際にスマホを使って「操作がわからない」に対して、個々の質問に答える仕組みづくりとして相談室を立ち上げ、高齢者の社会参加を促すことが目的とする。 改修工事期間の8か月も会場を移し、活動を継続できるよう支援した
参加者	毎回6人まで ※予約制 （ボランティア3人）

分析・課題

- スマホを使いこなすことで、コロナ禍での家族、友人とつながる手段となるように支援する。
- 災害情報など、情報収集の手段として日頃から慣れ親しむことが大切であることを伝える。
- 改修工事期間の8か月も会場を移し、活動を継続できるよう支援した結果、多くの高齢者のスマホ利用の疑問に寄り添うことができた。

⑥地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）との連携

実績等

○コロナ禍で外出自粛が叫ばれ、運動する機会や人と会い、おしゃべりする機会を失った高齢者の機能低下問題を地域支え合い推進員と連携、地域包括支援センターも巻き込み「10の筋肉トレーニング」の継続支援、新たに地域包括支援センター主催する「体力測定会」に協力、参加者の意力向上を目指したい。

○高齢者のフレイル対策

目 的	高齢者のフレイル対策とゆるやかな見守り
日 時	染地筋トレ通う会 毎週火曜日 10時00分～12時00分 全36回
会 場	染地地域福祉センター 第1・2集会室
内 容	介護予防「10の筋力トレーニング」を実施 ※コロナ禍であっても感染防止対策を徹底して、継続実施した結果、身体を動かす場所を探す方達の居場所となっている。
参加者数	毎回15～22人

分析・課題

○昨年、地域支え合い推進員と連携し、10の筋肉トレーニングを地域に紹介「染地筋トレ通う会」として自主団体となり、地域福祉センター利用団体登録も済ませ、活動を継続している。毎回、定員を上回る参加希望者があり、新たに「染地ふれあいの家」でも10の筋肉トレーニングを開催するに至る。どちらも定員を上回る参加者で高齢者の運動に関する関心の高さを強く感じた。地域福祉センター改修工事の8か月間についても会場を移して継続。高齢者も外出の機会を失うことなく、フレイル予防することができた。

⑦すぎもり地域学校協働本部との連携

結果の概要

地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもの成長の支援を積極的に推進していくことを目的にした「すぎもり地域学校協働本部」の地域コーディネーターからの依頼を受け杉森小学校家庭科の授業補助、調布市立第三中学校学習支援として地域で活動しているボランティアを紹介した。

○すぎもり地域学校協働本部との連携

目 的	地域と学校が連携、子どもの成長を支援する
日 時	○杉森小学校（家庭科/ランチョンマット作成・5年生）9月（12日・14日（2クラス）・15日・20日・21日26日・27日・28日10月（4日・5日・11日・12日・14日・17日・18日・19日・24日・25日・26日・27日） ボランティア数49人（家庭科/刺し子クッション作成・6年生）10月25日・27日・28日（2クラス）ボランティア数9人（家庭科/調理実習・6年生）12月（13日・15日）令和5年1月（19日・20日）3月（7日・9日・10日・14日）ボランティア数16人 ○第三中学校（家庭科/パルキーバック作成・2年生）11月（8日・15日（2クラス）・18日（2クラス））ボランティア数8人
会 場	杉森小学校内家庭科室&調理室 第三中学校内家庭科室
内 容	○杉森小学校：行事展覧会に展示する5年（ランチョンマット）・6年（刺し子のクッション）ミシン縫いの補助や6年生の調理実習の補助 ○第三中学校：パルキーバック作成の際、ミシン縫い補助

ボランティア数	すぎもり小学校 74人 第三中学校 8人
---------	-------------------------

分析・課題

○以前、杉森小学校校長から依頼を受け、マル付けボランティア、見守りボランティアを5年継続し活動した経緯があるが、昨年「すぎもり地域学校協働本部」の仕組みができ、地域コーディネーターからの依頼を受けボランティアを紹介した。ボランティアも、地域子どもたちとの触れ合いをととても楽しみに協力いただくことができた。今後も地域コーディネーターと連携して地域全体で未来を担う子ども達の成長を応援していきたいと思う。

(5) 緑ヶ丘コーナー

結果の概要

- 小地域交流事業「緑ヶ丘・仙川ふれ愛の集い」が3年ぶりに開催された。時間・内容ともに短縮して行われたが、お子さんの出演が多かったこともあり、地域の親子連れや子どもさんも多く、世代を超えた大変活気のあるあふれたまつりとなった。例年より参加者数も増えた。
- 地域福祉センターで活動する団体は、ボランティアが10団体、ひだまりサロンが6団体となりほぼすべての団体がコロナ前に戻り、活動を行っている。ひだまりサロン1団体は今年度、メンバーの高齢化により活動を終了した。
- 緑ヶ丘団地の建て替えの進行中。単身世帯の引っ越しの荷物の処分の悩みや、転居後の孤立化の問題など、相談が引き続き寄せられた。
- 地域福祉コーディネーターとの連携では、団地の孤立している住民の対応を引き次ぎ、コーナーで出会い、地域の方々とふれあいの場へ繋げることで、居場所ができたケースが数件あった。
- 地域包括支援センターでの定例の連携会議へ出席し、地域の情報や個別ケースでの対応などを参考に、コーナーでできる支援を考え行うことができた。
- 地域福祉センターで始まった「ゴリラプロジェクト」仙川POST0で開催している「仙川スープ」など、ボランティアスタッフからの相談やボランティア保険の手続きなど、協力を行った。

①第21回緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい（ボランティアまつり・小地域交流事業）

結果の概要

- 日時：2月25日（土）10時00分～13時00分
- 実行委員会：4回開催
- 当日参加者：約450人
- 3年ぶりの開催に、子どもから高齢者まで、世代を超えて大勢が集まり盛況だった。

②「認知症サポーター養成講座」の開催 ※地域包括支援センターつつじヶ丘と共催

結果の概要

- 第八中学校2学年対象に開催
- 日時：4月27日（水）
- 参加者：生徒97人
- 地域寸劇劇団「G2カイズ」の協力参加 5人 協力・・・他ゆうあい、包括、社協

コロナ禍のため、会場は体育館にて開催されたが、「G2 カイズ」の劇の評判が特に良かった。「G2 カイズ」への呼びかけや、スムーズに進めるための協力を行った。

③「スマホを楽しむ会」の自主グループ化

結果の概要

○毎月第2・3土曜日に定期開催。社協の広報紙（えんがわだより）をご覧になった男性が繋がり、指導者として活動に入ったことをきっかけに、教える体制が整ってきた。参加者が増え活動が活発化、個人相談日が増えて、令和5年4月からひだまりサロンに登録予定。

④地域包括支援センターつつじヶ丘・地域福祉コーディネーター（CSW）・地域支えあい推進員との連携

結果の概要

○地域包括支援センターつつじヶ丘にて、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーター、ゆうあい福祉公社、コーナーが、月に一回の地域連携会議を行った。情報提供等、地域の問題・課題を共有することができた。

○月に一度「仙川オレンジカフェ」を開催した。コロナの規制緩和とともに開催形態も緩やかになった。サマーボランティアや、社協実習生の体験を受け入れ、スタッフの意欲向上や意識の研鑽につなげる支援を行った。

⑤地区協議会「まちづくり協議会」との関わり

結果の概要

○運営委員の一員として、定例会議への出席と文化交流分科会のイベント参加

(6) 西部コーナー

①西部ふれあいのつどい（小地域交流事業）

実績等

○感染防止のため、西部地域福祉センターから第三小学校の体育館へ場所を移し、3年ぶりに開催した。

○昨年に続き、地域の情報を掲載した「ふれあいだより」を発行し、地域の学校や自治会に配布した。

②『心も体も温まる地域交流祭』第五中学校ボランティアダンス部との共催

結果の概要

○3年振りの開催となったため、全学年の生徒が初参加であった。そのため、3か月前に会場見学をしてもらう等、丁寧な準備を行った。

○希望者とボランティア25人がハンドマッサージを受けた。「楽しかった、元気をもらえた。ハンドマッサージが気持ち良かった」という感想が多く、来年もやって欲しいと好評であった。

実績等

開催目的	地域の方々にダンスで喜んでもらい元気になって欲しい、交流したいという目的で第五中学校ボランティアダンス部の生徒達が企画し、交流祭を開催。今回で6回目。
開催日時	3月12日

会 場	西部地域福祉センター大集会室
内 容	ダンス舞台発表、観客参加型クイズ、ハンドマッサージ
参加者数	来場者 31 人 部員 15 人、先生 2 人、ボランティア 6 人

分析・課題

- 今回は、生徒達が企画、運営、閉会挨拶まで全てを担い、地域のボランティア 6 人が支え、観客も中学生の舞台を盛り上げ応援する交流祭となった。地域の方々に支えられていることを初めて知ったと顧問の先生方、保護者から感謝の言葉があった。
- 3 年生は入学した時からコロナの影響でボランティアダンス部らしい活動が出来なかったため、最後に良い思い出を作ることが出来たと顧問の先生からお礼の言葉があった。
- 地域福祉センター大集会室の定員が 25 人ということで来場者人数の制限が厳しく、来年以降は今回同様の規模にするか、来場者を増やすために別の会場にするか考える必要がある。

③スマホひろば

開催目的	ソフトバンクの初心者スマホ教室を受講した高齢者が、その後も日常にスマホを使用出来るようにする。スマホを通じて交流する団体を立ち上げ。
開催日時	毎月第 4 木曜日
会 場	西部地域福祉センター 第 3 集会室
内 容	ボランティアの支援の下に参加者同士で操作方法を教え合う交流の場。
参加者数	毎回 7 人前後

④西部 10 筋体操の会

開催目的	外出の機会が減った高齢者のフレイル予防のため、地域包括支援センターちょうふの里サブセンターと連携し体験会を開催。その後、自主グループを立ち上げ。
開催日時	毎月 3 回 第 1、2、4 木曜日
会 場	西部地域福祉センター 大集会室
内 容	地域包括支援センターから CD を借り、椅子を使用した簡単な体操。
参加者数	毎回 20 名～25 人

⑤地域福祉コーディネーター（CSW）・地域支え合い推進員との連携

結果の概要

- 地域福祉コーディネーターが欠員の状況であったが、地域の実情に応じた体験講座（スマホ講座、体操）を開催し、取組みを継続した。

実績等

- 10 筋体操：感染拡大で休止していた体験会を 4 月 26 日、5 月 24 日に開催した。また、6 月に自主グループ「西部 10 筋体操の会」を立ち上げた。
- 令和 3 年度に開催したソフトバンク初心者講習会に参加した高齢者が、スマホを継続的に使用出来るように「スマホひろば」を立ち上げ、5 月から毎月 1 回活動を継続した。

○ひだまりサロン「ほっとカフェ談」、「みんなの体操」、「サンルーム西華」の活動を支援した。

分析・課題

- 「10 筋体操」秋から体操の希望者が増え、参加者が会場の定員ぎりぎりの状態である。
- 「スマホひろば」高齢者のスマートフォン操作に対する相談にのるボランティア、団体運営の中心になる人の確保や人数が増えた場合の会場の確保に課題が残る。

⑥地域との連携

○『西部地域ネットワーク会議』

日時：8月9日（オンライン）、11月29日

内容：地域の課題の共有と解決に向けての情報交換を行った。

参加者：地域包括支援センターちょうふの里、サブセンター、西部公民館、民生委員、社協（地域支え合い推進員、西部コーナー、富士見コーナー）

○ふらっと喫茶（認知症カフェ） 毎月第3水曜日

当事者、家族、誰もが参加出来、一緒に学び、語り合う認知症カフェ。語り合いの場から出た参加者の相談を各専門機関が対応する。毎月開催していることで各機関の情報交換の場になり、連携が促進されている。（青木病院認知症疾患医療センター、地域包括支援センターちょうふの里、ゆうあい福祉公社、民生委員、社協地域支え合い推進員、西部コーナー）。

(7)野ヶ谷の郷

結果の概要

○梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

【概要】

機能	①ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	44人（うち役員11人）

実績等

①総会・スタッフ交流会

※感染症拡大の影響を受け、令和3年度に引き続きスタッフ交流会は中止、総会はスタッフから委任を受け、役員会によって承認・決議した。

日時	4月8日（金）10時00分～正午
内容	以下の議案を提案し、承認された。 ・令和3年度事業報告・令和3年度決算 ・令和4年度事業計画（案）・令和4年度予算（案） ・令和4年度役員（案）

参加者	出席 10 人、委任状提出 31 人
-----	--------------------

②野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家 綾子	副代表	小澤 康史	副代表	小阪井 真樹子
会計	磯野 幸子	会計監査	百合田 紀恵子	役員	石川 規子
役員	平柳 千鶴子	役員	柄澤 宏子	役員	白石 明康
役員	関口 邦子	役員	石田 敦子		

○役員会を 6 回開催し、運営について話し合いを行った。

③ボランティアスタッフによる独自活動

内 容	開催日時
絵を描こう会	第 1・第 3 土曜日
パッチワークの日	第 4 木曜日
折り紙の日	第 4 火曜日
お直しの日	第 2・4 土曜日
ふれあいランチ	第 2 土曜日
パソコン教室	第 4 土曜日（中止）
やってみよう！野ヶ谷の郷	開所日の 16 時 00 分～17 時 00 分
ちぎり絵の日	第 3 土曜日

分析・課題

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域イベントの多くは中止となったが、昨年に引き続き、梅の湯との共催で 10 月 24 日（月）に「クラシックコンサート」を実施した。地域の高齢者を中心とした 70 人以上の参加があり、盛況だった。久しぶりに対面できたという方も多く、非常に喜ばれた。
- 独自活動は、昨年度実施できなかった「ふれあいランチ」を再開することができた。しかし、「パソコン教室」は感染防止の観点から、すべて中止となった。
- 野ヶ谷の郷ボランティアスタッフの高齢化が継続的な課題となっているが、ふくしの窓で募集を行った結果、新たなスタッフが 6 人加わり、年度末時点のスタッフ数は 44 人と過去最高のスタッフ数となった。また、運営の中心となる役員の代替わりも少しずつ進めており、令和 5 年度は役割の変更に加え新役員の登用も予定している。引き続き多様な世代が関わる地域の居場所を目指し、周知の強化や運営の工夫が必要である。

第 2 情報・資料の収集及び提供

1 えんがわだよりの発行

結果の概要

- ボランティア募集や市民活動に関する話題を取り上げる機関誌として発行。
- その時々ボランティア・市民活動情報をタイムリーに提供するため、年 11 回発行。

- 多くの方に手にしてもらおう工夫として、関連講座、事業等の参加者に配布を心掛けている。
- 特集記事の作成にあたり、職員が様々な団体の活動の現場を見学・取材することで、紙面の充実と団体との関係性の構築につながっている。
- 明るく、見やすい紙面を目指しレイアウトデザインを工夫している。

【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通し新たな人々との関係を構築する。
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> ○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動などの市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。 ・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。 ・市民活動団体の情報発信源となる。 ○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題に取り組む市民活動などを通して、地域社会の現状と、将来について考えていく。 ・さまざまなネットワークを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。 ○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・センター事業の報告などを通じ、センターの取組を紹介する。
発行日	毎月15日発行（11月12月は合併号のため年11回発行）
発行部数	毎月1,300部
配布先	<ul style="list-style-type: none"> ・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学 ・市民活動支援センターサポーター ・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・特集記事（地域の市民活動団体紹介、社会課題の取組紹介など） ・ボランティア募集 ・お知らせ（地域の市民活動情報、助成金情報など） ・センターからの発信（コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介）

実績等

各号の特集記事の内容

号数	内容
4月号 (No.187)	ボランティア活動の足あとと、その先の一步 ありがとうを伝えたい
5月号 (No.188)	調布市福祉作業所の手づくり製品の魅力 世界に一つのハンドメイド
6月号 (No.189)	つながろう育もう 人と人がつながる場所

7月号 (No.190)	慈恵医大「ボランティア論」から 人生十色 私を豊かにするまちの入り口
8月号 (No.191)	苦手なスマホが新しい楽しみに
9月号 (No.192)	知っていますか？フレンドホーム 未来へ向かう子どもをそっと支える制度
10月号 (No.193)	かえってきた ちょうふチャリティーウォーク
11.12月号 (No.194)	支え合う気持ちの輪 災害ボランティア
1月号 (No.195)	ボランティア始めてみませんか？ 自分を支えるあたらしい柱をつくろう
2月号 (No.196)	えんがわフェスタ 2022 開催報告
3月号 (No.197)	利用者アンケート報告

分析・課題

- 読者のニーズに合った情報を提供できるよう、毎月多彩な情報を掲載するようにしている。
- 特集記事において、長期的な計画をたて、余裕をもったスケジュールで作成した。このことにより、掲載内容について十分な確認期間が取れるようになった。
- より多くの情報やセンターが得ていない情報も幅広く掲載するため、団体情報やボランティア情報について公募をかけることを検討している。
- 読みやすく興味を持ってもらえる紙面に改善するため、利用者アンケートの結果などをふまえ、次年度からカラー化し、偶数月発行とすることにした。

2 えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

- 平成20年3月より、シーサー株式会社運営無料ブログサイトを活用し、Web上でえんがわだよりの配信を行っている。

3 市民活動支援センターホームページ運営

結果の概要

- より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体として活用するためのホームページを運営した。
- 市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集など）を支援すると同時に、「調布市生涯学習情報コーナー」「ちょうふ地域コミュニティサイトちよみっと」と連動し、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体として情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。
- 登録団体数については、市内の特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム（CLIC）や、地区協議会、調布市立図書館の情報発信事業である「市民の手によるまちの資料情報館」のサイトと情報共

有を図り、現在 424 団体がセンターの団体ページを公開している。(他に、活動休止、廃止などの団体の事情により、ページ登録中の非公開団体が 453 団体)

- 主な項目は、「団体検索」「イベント・講座」「市民活動 (NPO/地域活動) とは」「寄付・助成金」「ボランティア情報」「企業の社会貢献 (CSR)」「センター利用案内」などである。
- 調布市が平成 29 年 4 月から始めた「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」とのシステム連動で、「団体登録」「イベント情報」が連動して掲載されることになっている。

実績等

- ホームページトップページのアクセス数の総件数は前年度対比で64%と減少した。一方で、トップページを経由せず、直接検索してアクセスしたイベントページのアクセス数は、前年度対比約162%と大幅に増加した。

トップページのアクセス数 (件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
H30 年度	1,786	1,948	2,710	2,725	2,007	1,618
R1 年度	1,550	1,556	2,436	2,412	1,698	1,548
R2 年度	1,312	1,774	1,949	1,764	1,903	1,549
R3 年度	3,622	2,487	1,717	3,064	1,707	1,576
R4 年度	1,955	1,363	1,658	1,564	1,285	1,201
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H30 年度	1,852	1,778	1,494	1,456	1,594	1,723
R1 年度	8,266	1,772	1,393	1,390	1,501	1,714
R2 年度	1,610	1,291	1,220	1,227	1,397	2,244
R3 年度	1,792	1,664	1,254	1,264	1,448	1,628
R4 年度	1,306	1,213	1,176	1,209	1,223	1,289

※アクセス解析で、Google アナリティクス (Web アクセス解析ツールの名称) は 30 分以内のアクセスは 1 アクセスとしてカウントしている

分析・課題

- トップページへのアクセス数は減少したが、イベントページへのアクセス数が急増している。これは、センターで令和 2 年 6 月から運用している Twitter からのイベントページへの直接のリンクや、ちょみっとからのリンクが増加しているためと考えられる。
- 次年度は、ふくしの窓 9 月号において、令和 2 年度以降、3 年ぶりの特集記事掲載を予定しているため、これまで情報が届いていなかった市民にも情報が届けられるよう、周知・啓発に努めたい。
- ホームページ全体の掲載内容の見直しが行えておらず、ページによっては実態に合わない案内があったり、近年新たに取り組み始めた事業が掲載できていなかったりするため、適正な内容の掲載と改善は課題である。

4 資料コーナーの充実

より多くの市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして役立てるため、

市民活動支援センターに資料コーナーを設置している。

結果の概要

- 利用者アンケートを参考に資料コーナーのレイアウトを変更した。720 cm幅の掲示板を設置し、ボランティア募集、イベント情報、地域団体情報、助成金情報を分けて掲示した。また、掲示板の下にチラシを配架し、手に取りやすい仕掛けとなるよう工夫した。
- ボランティアやNPO 関連のみならず、幅広い分野のチラシやポスターを配架、掲示したことで、多様な活動情報を提供した。

実績等

(1) チラシ等受入数内訳（令和4年4月～令和5年3月）

(人)

内容	令和4年度	令和3年度	分野	令和4年度	令和3年度
講座・講演	285	268	ボランティア・市民活動支援	177	163
イベント	117	97	福祉・保健	174	172
ボランティア募集	26	17	災害	28	26
スタディツアー・キャンプ	0	0	まちづくり・地域安全	42	47
寄付・募金	8	9	人権・国際協力・男女共同参画	75	73
団体・活動紹介	63	75	社会教育	24	17
スタッフ・メンバー募集	84	62	環境保護	32	33
助成金	47	53	文化・芸術・スポーツ	120	106
その他	52	56	子ども	73	55
計	682	637	その他	87	86
			計	832	778

(部)

体裁	令和4年度	令和3年度
チラシ	569	487
ポスター	132	134
パンフレット他	77	93
計	778	714

(2) ニュースレター受入数内訳（令和4年4月～令和5年3月）

(部)

分野	令和4年度	令和3年度
ボランティア・市民活動支援	75	85
福祉・保健	43	43
まちづくり・地域安全	11	14
人権・国際協力	8	12
環境保護	5	8
文化・芸術・スポーツ	8	10
災害	2	3

こども	7	6
その他	5	7
計	164	188

(3) 定期購読雑誌の受入数内訳

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年6回
月間福祉	全国社会福祉協議会発行	月刊
ホームレスの仕事をつくり自立を 応援する「ビッグイシュー日本版」	ビッグイシュー日本発行	月2回

(4) 閲覧用図書・機関団体等報告書類の新規受入れタイトル

(件)

内容	令和4年度	令和3年度
市民活動支援、NPO 設立ガイド等	5	31
福祉関連	0	8
災害	1	4
その他	0	6
計	6	49

分析・課題

- 配架依頼、掲示依頼が多数あり、資料コーナーが雑多な印象になりやすいため、期限切れ資料の撤去を随時行う等、情報の整理に注力した。
- 積年の課題であった配架レイアウトを変更したことで、資料コーナーで立ち止まって情報を見たり手にしたりする来館者が増加した。新規の配架依頼も増え、効果を実感している。

5 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

結果の概要

- J-COM株式会社（CATV）、調布エフエム株式会社、タウン誌（182ch）、地域ポータルサイト（ちよふどっとこむ・ちょみっと）等の協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。
- ふくしの窓では、毎号ボランティア情報等を「伝言板」として掲載している。
- 調布市協働推進課が発行している『地域活動情報誌じょいなす』においても多くの情報提供を行っている。
- 広報媒体として大きな力のある調布市報で、必要な情報提供を行っている。
- センターの公式Twitterを運用し、タイムリーな情報提供を行っている。令和5年3月31日現在のフォロワー数は、574人となっている。

6 市民活動団体リストの発行

結果の概要

○令和4年度は2年に1回の発行年にあたらないため、「令和3年・4年度市民活動団体リスト」を引き続き配布した。掲載団体数は420団体。

○調布市生涯学習情報コーナーと協力し、生涯学習情報コーナー発行のサークルガイドブックを配布するとともに、市民活動団体リストの配布にも協力が得られた。

第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

1 スペース・設備の貸出し

結果の概要

○市民活動団体の会議、作業、打ち合わせなど、様々な目的に応じてスペースの貸出しを行った。

実績等

(1) 市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況

○来館者数(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	2,347	2,731	6,138	7,406	2,347	2,768
一日平均	81	91	212	247	81	95
前年同月比	117%	213%	149%	203%	121%	134%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数	2,811	2,752	2,473	2,452	2,769	2,569
一日平均	94	95	92	91	107	86
前年同月比	36%	106%	101%	106%	134%	107%

○活動スペースはばたき・0Aコーナー利用者数(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間利用者	1,803	1,975	2,067	2,207	1,770	2,069
一日平均	62	66	71	74	61	71
前年同月比	121%	207%	134%	137%	113%	123%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者	2,082	2,162	1,831	1,953	2,175	1,949
一日平均	69	75	68	72	84	65
前年同月比	107%	115%	108%	118%	149%	122%

○調布市市長選挙期日前投票期間 6月21日(火)～6月24日(金)

○参議院議員通常選挙期日前投票期間 7月5日(火)～7月8日(金)

○年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	令和3年度	令和4年度	前年度比
来館者数(人)	34,718	39,563	114%
利用者数(人)	19,060	24,043	126%
相談件数(件)	431	719	167%

【利用者数内訳】

	令和3年度	令和4年度	前年度比
活動、打ち合わせ、相談など	9,989人	14,192人	142%
パソコン利用	2,437人	2,525人	104%
学習	6,435人	7,071人	110%
印刷機	199人	255人	128%
合計	19,060人	24,043人	126%
展示(壁)	9件	13件	144%
展示(えんがわギャラリー)	1件	13件	1,300%
合計	10件	26件	260%

結果の概要

○令和3年10月に衆議院議員選挙があったため、10月の来館者数の前年対比が36%となっているが、その他すべての月で前年度を上回る来館者数となった。

○体温計測、アルコール消毒、空気清浄機や扇風機を活用し、昨年度に続き感染防止対策の徹底に努めた。

分析・課題

○活動スペース「はばたき」は、団体・個人とも調布市内だけでなく、他市の利用者も多い。空席さえあれば誰でも使用できる利便性の高さが好評である。

○感染を拡大させないように、利用する団体や個人への注意喚起を継続して運営を行った。5月からは黙食ではあるが、フリースペースで飲食できるようになった。

○パソコンコーナーは、市民活動・ボランティア活動に関わる利用以外の目的での活用が多くなっているが、同様の市民サービスを提供している場がないという点で必要性が高い。

○団体同士の交流やセンターと団体との関わりを増やすため、新たに「えんがわギャラリー」をスタートした。壁面展示と比較し、コンパクトなスペースだが、多くの来館者が興味を持ち、センター内の新たな交流拠点として賑わっている。

(2) ボランティアコーナー(ランチ) 来所者数

拠 点	来所者数	
	人数	一日平均
小島町コーナー(週5日)	*ボランティア活動室利用者数 3,518人	6.8人

菊野台コーナー(週3日)	1,883人	12.2人
富士見コーナー(週3日)	2,754人	19.2人
染地コーナー(週5日)	※2,128人	※25.3人
緑ヶ丘コーナー(週3日)	3,826人	26.5人
西部コーナー(週5日)	1,732人	7.8人
合計	15,848人	16.3人

※染地コーナーは令和4年8月から8か月間改修工事だったため、令和4年4月から7月までの4か月の利用者数と1日平均を記載。

(3) ロッカー、メールボックス、倉庫2スペースの貸し出し(国領)

結果の概要

- 活動室内に設置されているロッカー、メールボックス、倉庫2の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行った。
- ロッカーの利用率が高い一方で、メールボックスは利用率が低く、空いているボックスが目立っていたため、利用されていない4台のメールボックスを処分した。
 ≪利用率：ロッカー 92/108 メールBOX 35/72≫
- 倉庫2スペースは、13区画のうち、半区画1か所のみ空いている。

実績等

内 容	令和4年度	令和3年度
ロッカー利用団体	92 団体	94 団体
メールボックス利用団体	35 団体	38 団体
倉庫2 空きスペース利用団体	15 団体	16 団体

- 更新手続き時を中心に、活動状況や使用頻度を振り返っていただいたり、センターとしても長期間利用のない団体への確認を行い、結果8団体が返却となった。(令和3年度は7団体が返却)。
- はばたきスペースのレイアウト変更等で活動が活発になることにより、今後は新規団体の申請が増加する可能性がある。利用のルールを明確にしていく必要がある。

分析・課題

- 年に1回の更新手続きや、日々の鍵の貸し出しなども、職員と団体が話をする良い機会となっている。引き続き、こうした小さな機会を大切にしていきたい。
- ロッカー・メールボックス、倉庫2スペースともに、利用状況を確認し、未使用・無来館で長期間利用している団体が無いよう管理し、有効活用できるようにしていきたい。

2 ボランティア保険・行事保険の加入受付

結果の概要

- ボランティア保険への加入促進の呼びかけと、加入手続きの事務を取り扱った。

実績等

ボランティア保険加入者数（通年保険・受付随時）		3,634人	
行事保険加入件数	日帰り行事	170件	4,151人
	宿泊行事	10件	148人

3 無線 LAN スポット運営

総合福祉センターの1階2階の全域で利用できるよう、無線 LAN スポットエリアを設置している。また、あくろす2階・3階共通のフリーWifi導入に伴い、SSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線 LAN を利用している。

分析・課題

○総合福祉センターで実施されている手話講習会は、コロナ禍で、オンライン授業となる機会があり、多くの受講生と講師がWi-Fiの利用登録をした。ただ、セキュリティの観点から、利用希望者全員、登録制にしているが、想定よりも多数が利用することになったため、毎年、パスワードの変更を行ってリスクを軽減している。

※無線 LAN 機器（株式会社バッファローAirStationPro）セキュリティ機能の範囲内で設定。

○はばたき利用者に広く有効活用されており、メールアドレスを一度登録すると利用できるため好評である。また、1時間毎に接続されてしまう仕様が使いにくいという意見が多い点が課題となっているため、指定管理業者に情報提供している。

4 電話対応代行サービス（国領）

結果の概要

○市民活動団体が実施する活動やイベント・講座等に関する問い合わせ・受付けの支援サービスとして、電話対応代行サービスを実施した。

実績等

利用料金	一件につき、月額 1,000 円（サポーター会員は 800 円）	
利用件数	令和4年度：延べ 29 件（5 団体）	令和3年度：延べ 5 件（3 団体）
サービス内容	行事・講座・講演会等への内容照会および参加申込受付代行・団体の活動に関する問合せへの応答代行	

分析・課題

○令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くのイベントが中止・延期となったが、令和4年度はウォーキングイベントや見学会なども開催できるようになり、利用件数が大幅に増加した。

5 印刷機の設置・運用

結果の概要

○市民活動団体のイベントチラシや会議資料等、大量の印刷物を安価に印刷できるよう、利用講習

修了者であれば誰でも利用できるリソグラフ式印刷機を設置している。利用料は、マスター1枚につき50円、印刷枚数500枚につき100円の費用徴収を行っている。

実績等

利用実績	令和4年度	令和3年度
印刷機利用件数	139	112
印刷機利用者数	255	197
印刷講習受講人数（新規利用者）	10	10

分析・課題

○昨年度対比で利用件数も利用者数も増加した。様々な活動の再開に伴い、チラシや会報を作成する団体が増えたことが理由と考えられる。

6 市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

- 「えんがわカフェ」は、運営委員をはじめ市民の協力を得て実施した。
- 「おはなしほっとカフェ」の参加をきっかけに、多胎児のサークル、ワーキングママのお話会、子育て中のパパが電車をテーマに交流するイベントなど、さまざまな活動が立ち上がった。
- 子どもの年齢に合わせたおもちゃ、プレイマット、ベビーチェア、ベビーサークル、ベビーベッドなどの貸し出しを行い、子育て世代が多様な方法で利用できる環境づくりを行った。

実績等

日時	開催名	参加者数	講師	会費	場所
4月16日（土） 14時～15時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	6人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす
4月23日（土） 10時～11時15分	えんがわカフェ ふたご・みつごおしゃべり会	15人		無料	市民プラザ あくろす
5月26日（木） 10時～12時30分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	5人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	ふじみ倶楽部 ハウス
5月28日（土） 10時～11時15分	えんがわカフェ ふたご・みつごおしゃべり会	11人		無料	市民プラザ あくろす
6月13日（月） 10時～11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	4人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす
6月25日（土） 10時～11時15分	えんがわカフェ ふたご・みつごおしゃべり会	6人		無料	市民プラザ あくろす
7月2日（土） 10時～11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	10人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす

第2部 ボランティア・市民活動の推進

7月23日(土) 10時~11時15分	えんがわカフェ ふたご・みつごおしゃべり会	8人		無料	市民プラザ あくろす
7月29日(金) 18時~20時	えんがわカフェ ヤングケアラー知ろう! 考えよう!	10人		無料	市民プラザ あくろす
8月17日(水) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	中止	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす
9月17日(土) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	8人	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
10月26日(水) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	6人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす
10月29日(土) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	2人	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
11月20日(日) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	10人	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
11月28日(月) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	10人	横山真理氏	無料	市民プラザ あくろす
12月17日(土) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	3人	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
12月20日(火) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」 ※クリスマスパーティ	10人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす
1月14日(土) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	8人	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
1月30日(月) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	7人	横山真理氏	無料	市民プラザ あくろす
2月12日(日) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	中止	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
2月22日(水) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	6人	横山真理氏	無料	市民プラザ あくろす
3月5日(日) 9時30分~11時15分	えんがわカフェ 電車っ子Party	23人	下村玲氏	無料	調布学園 まんまる
3月18日(土) 10時~11時30分	えんがわカフェ ワーママのちょっと話そう会	中止	矢田由美子氏	無料	市民プラザ あくろす
3月25日(土) 10時~11時15分	えんがわカフェ 「おはなしほっとカフェ」	2人	横山真理氏	無料	市民プラザ あくろす
合計	24回	170人			

分析・課題

- 昨年度に引き続き、これまで利用の少なかった子育て世代にセンターを知ってもらい、地域参画のきっかけづくりを行うことを目的に「おはなしほっとカフェ」をはじめ、多くの企画を実施し、新しいつながりやパートナーシップを強化するきっかけづくりを行った。
- 「おはなしほっとカフェ」をはばたきで実施。子ども達が遊ぶにあたり、危険を回避するため場所の制限などを行った。声量についても他団体に配慮を呼び掛けた。
- 他市の取組の見学や、意見交換会等に参加し、活発な情報交換とネットワークづくりに努めている。

7 不要になった入れ歯、使用済み切手・カード類、書き損じはがき、外国コイン類の回収

結果の概要

- 特定非営利活動法人日本入れ歯リサイクル協会が実施する「入れ歯リサイクル活動」に協力し、調布市総合福祉センター1階に回収ボックスを設置している。
この活動で、得られる益金の一部（40%）は当協議会に配分され、えんがわファンドの原資として活用。令和4年度は、6月に回収があった。今回の容量によって、次回以降は3年に1回の割合での回収となる。
- 使用済み切手、カード類の回収は、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付も募った。
- 回収する物を示すチラシを作成する事に加え、毎年の売上げ報告も掲載している。市民活動を応援する「えんがわファンド」の原資として、活用していることを周知した。

実績等

種 類	売上金額	換金日	売上金額	換金日
入れ歯リサイクル	51,896 円	令和4年6月22日		
通常切手 記念切手類	75,500 円	令和4年7月11日	43,885 円	令和5年3月8日
書き損じはがき	22,260 円		25,282 円	
使用済みカード類	20,300 円		7,000 円	
外国コイン	82,500 円		28,200 円	
合計金額	252,456 円		104,367 円	
総合計金額	356,823 円			

8 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する事業である。（平成18年度より実施）

○幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。

○市民ファンドとして、市民や企業からいただいた寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カードの販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用した。

実績等

(1) えんがわファンド選考委員会

① 選考委員会の開催状況

開催日	5月23日(月) 19時～21時
会場	市民プラザあくろす3階
内容	応募団体6団体を書類審査により5団体に助成決定 ※1団体は再選考

② 再選考委員会の開催状況

開催日	5月30日(月) 18時30分～19時15分
会場	オンライン開催
内容	再選考となった1団体について審査を行い助成決定

③ えんがわファンド選考委員 ◎…選考委員長

南條 勉	ちょうふチャリティーウォーク実行委員
旗野 貞夫	八王子市市民活動支援センターNPO さぼーと 802
◎壽賀 一仁	市民活動支援センター運営委員長
横山 由紀	市民活動団体代表
高木 直	市民活動支援センター長

(2) 助成先団体 計6団体 助成総額527,874円 ※(申請順)

【2022年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	調布市難聴者体操の会	100,000	聴覚に障害のある人も楽しめる体操の場所を継続的に提供するための、要約筆記者謝金、チラシ作成費用、体操講師謝金(一部)。
2	ワンツ一水曜会	100,000	高齢者の転倒による骨折や引きこもり、認知症などの予防を目的とした健康体操の実施、健康を維持しながら社会参加が継続できるようにするための、講師謝礼とチラシ作成費用。
3	フットの会	88,600	足・靴・歩行の正しい知識を提供し、正しい靴の履き方・選び方を理解することで、

第2部 ボランティア・市民活動の推進

			足からの健康を促進するための活動パンフレット作成費用、イベント開催用会議室借用費用。
4	特定非営利活動法人 Smileup	69,900	傾聴の大切さを様々な方に知ってもらうための映画上映会に必要な設備費用、映画レンタル料金。
5	はちみつルーム	96,862	様々な年齢や背景を持つ人の安らぎの場・出会いの場・きっかけの場になる居場所の継続的な運営に必要な会場費、活動補助費、消耗品費、遊具費。
6	生きづらわーほりプロジェクト	72,512	ひきこもり当事者や経験者が集い、語り合う場やイベント（ハートtoハートちょうふ懇談会）を運営・開催するために必要な謝礼金、会議費、会場費、印刷製本費、ホームページ関連費。
	合計	527,874	

(3) 2022年度えんがわファンド交流会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(4) 財源（寄付金等）

実績等

令和4年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	令和4年度	令和3年度
サポーター会費	192,000円	228,000円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	206,537円	44,000円
企業訪問（市民活動支援センター運営委員会）	0円	0円
指定寄附	228,477円	0円
リサイクル益金 （使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯）	356,823円	231,705円
えんがわカフェ	0円	0円
市民活動支援センター募金箱	0円	0円
講演等謝金（一部）		
合計	983,837円	503,705円

分析・課題

○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業実施予定が不透明な団体が多く、申請しても計画通りに実施できないかもしれないという声があった。そのため、令和3年度に続き、申請団体数は少なく、6団体であった。

○本来であれば、資金面だけでなく、つながりづくりという点も積極的な支援を行い、団体同士の活発な交流を促したかったが、感染防止の観点から、令和3年度に続き、従来通りの取組ができなかった。

第4 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

結果の概要

○相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

実績等

(1) ボランティア団体登録状況

○情報登録団体 420 団体（市民活動団体リスト掲載数）

○小島町コーナー登録団体 135 団体

○令和4年度は、新規が1団体登録あった。市内を活動拠点とするボランティア団体で、調布駅周辺で活動する団体が、小島町コーナーに登録。情報登録団体と重複している団体は多い。小島町コーナー登録団体は、年間通してボランティア活動室を定期利用でき、総合福祉センターの印刷機は無料で利用が可能。定期利用団体は、活動室内の棚やメールボックスの利用も可能。定期利用希望団体は、現在20団体ほどである。

(2) ボランティア活動状況

結果の概要

○保険加入者数 3,634人

○個人で活動するボランティアは、登録制度をとっていない。その為、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入者数が実態に近いと考えられる。この中には、施設等で長年継続して活動されている方等、コーディネート件数に含まれないボランティアも入っている。

○1回のみでの活動、あるいはサマーボランティア等、短期且つ、限定的な活動者も加入するため、スポットで活動した方もカウントできる。ただし、必ずしも調布市での加入者が調布で活動するとは限らず、その反対の場合もある。若干の相違が生じると思われるが、そのようなケースは少数で、誤差の範囲内であると考え、最も実態に近い数字といえる。

○令和4年度も、令和3年度同様コロナ禍の影響を受け、ボランティアの受入れを制限する施設が多く、例年通りの活動ができない方が多かった。活動者数も、前年度とほぼ変わらず、コロナ禍前と比べ25%減のままとなる。

(3) 相談業務及びコーディネート事業

結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの高齢者施設では、全面的にボランティアの受入れを休止するところが多く、デイサービスでの日々の活動のサポートは、令和2年度、3年度同様に、この一年も、ほとんどできない状況であった。また、誕生会等のイベントに関わる、演奏披露のような活動は、感染予防を徹底したうえで、再開するケースも少しずつ出てきた。

○社協事業に関わる活動については、高齢者会食、ふれあい給食など、食事提供を伴う活動は、引き続き、活動できないものがあつた。サロン活動などは、感染状況の様子を見ながら、少しずつ活動再開するところも出てきた。また、ボランティア活動団体は、活動時間を短縮するなどの方法を取りながら、活動を再開し始めるところが多くなってきた。施設での活動が紹介できない中、ボランティア団体を活動先と

して紹介することができた。

- 自宅でもできるボランティア活動として、切手整理の活動（仕分けや束ね等）や、雑巾縫い等に、今年度も多くの方が取り組んだ。
- 特別支援学校に通う子どもの送迎は、年間通して活動があった。障がい児の放課後活動「放課後等デイサービス」で、送迎車両の運行を行っていない施設に通う子どもの送迎や、朝の登校時の付き添い等、場面は様々である。また送迎は、対象は児童生徒に限らず、ショートを利用している成人の送迎も引き続き支援した。

実績等

①相談件数

拠点	小島町 コーナー	菊野台 コーナー	富士見 コーナー	染地 コーナー	緑ヶ丘 コーナー	西部 コーナー	国領 センター	合計
相談 件数	4,183 件	201 件	455 件	612 件	688 件	208 件	(719 件)	6,347 件 (7,066 件)

※合計は市民活動支援センター窓口を除く

分析・課題

- 障がい児・者の送迎依頼は、「放課後等デイサービス」を利用する児童生徒を学校から施設まで、デイサービス終了後、自宅までの依頼など相談があり、それに対応した。その他、朝、特別支援学校へ登校時の見守り等の依頼にも対応。毎週の支援や、週に数回の支援が必要なケースもあるため、一人の児童生徒に対し、複数名のボランティアで対応するケースも多かった。
- 調布市の場合、特別支援学校の登下校や放課後等デイサービスなど、施設への通所で、移動支援サービスが利用できない。小中学校の支援学級に通う場合も、送迎バスがない。特別支援学校の場合、高校生からは府中まで通学となる上、送迎バスの利用ができないケースも多い。その為、家族で送迎をするか、もしくはボランティアの支援に頼らざるを得ない状況が続いてしまっている。このような状況は、家族への負担を大きくしているが、一方で、公共機関を利用し徒歩で通学することは、障がい児の成長過程でよい刺激を受ける事ができ、また、同じ町の市民に対して、障がい理解のきっかけを生む働きかけができると考えることもできる。
- ボランティアは、障がい児・者支援の経験が無い人がほとんどではあるが、一緒に歩き、通学を見守る中で、障がい児自身が発達・成長をしていく過程を共に支え、見つめる人になっていく活動だと感じている。
- 昨年度に引き続き、各地域で高齢者のスマホ操作に関する相談が多くなっている。地域性に合わせたスマホ講座や相談を立ち上げ、継続的に実施する中で、必要最低限の情報収集や人とのつながりが維持できるよう、引き続き工夫しながら取り組む必要がある。

2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

(1) ボランティアガイダンス

結果の概要

- 市民の社会参加を促しこれからの市民活動を担う人材を発掘することを目的に、ボランティア・市民活動に参加したい方や知りたいという方を対象に、ボランティアガイダンスをセンター及び各ランチで開催した。

実績等

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ	事業協力者
小島町コーナー	9月21日(水)	5人	2人	0人
	3月15日(水)	2人	2人	0人
富士見コーナー	7月21日(木)	1人	1人	0人
	2月25日(土)	1人	1人	1人
菊野台コーナー	5月21日(土)	2人	1人	0人
	12月6日(火)	0人	1人	0人
染地コーナー	6月18日(土)	1人	1人	0人
緑ヶ丘コーナー	8月27日(土)	2人	1人	0人
	1月26日(木)	1人	1人	0人
西部コーナー	10月21日(火)	1人	1人	0人
市民活動支援 センター(国領)	4月15日(金)	4人	2人	0人
	11月26日(土)	4人	2人	0人

(小島町コーナー)

- 駅前立地を活かし、総合福祉センター1階の窓に、ポスターを掲示し広報に努めた。
- ふくしの窓や市報等、全戸配布による広報がかなり有効で、開催日時は、広報誌の発行の時期を考えて、設定していくことも大切と感じる。
- 毎月発行の「えんがわだより」も日々の窓口対応で声掛けを行い、また、ふくしの窓に挟み込む等、周知を図った。
- ボランティア募集状況については、引き続き施設での受け入れが厳しい中、ボランティア団体の活動を紹介することが多かった。
- 活動の制限がある中、寄付や福祉施設が運営する店舗の商品を購入するという事も、活動の一つにあると案内を加え、市内作業所の店舗や商品紹介も行った。

(菊野台コーナー)

- 参加者1名から琴の寄付の申し出があり、染地コーナーとともに対応した。

(富士見コーナー)

- コロナ禍によって、人のつながりが変化したが、今年度はボランティアを通じた地域での新たな活動、人との出会いを求めて参加された方からの相談を複数受けた。

(緑ヶ丘コーナー)

- 2度開催。1回目の方は、コロナ禍だったため活動の紹介を行った。2回目の方は、平日は仕事のため土日の活動を希望された。本人の希望で参加された「スマホを楽しむ会」ではスタッフとなり活動開始。今後、指導する側での活動に繋がる可能性がある。

(西部コーナー)

- 認知症カフェ「ふらっと喫茶」を担当している認知症患者センターの職員が地域の活動を知るためにガイダンスに参加。高齢者関連の活動を中心に説明した。

(染地コーナー)

○参加者は、既に活動の目的が明確だったため、本人意思に寄り添い、希望を受け入れてくれそうな団体を紹介した。結果、活動に定着し、楽しみながら参加している。

(市民活動支援センター)

○参加者は増加傾向にある。受入れ先も少しずつ広がってきており、ほとんどの参加者を活動につなぐことができた。

第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

1 やあやあドリームオールスターズ (YDAS)

「こどもあそび博覧会」

結果の概要

○引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、学校施設の借用が難しいことから実行委員主要メンバーによる協議のうえ、開催を見送ることを決めた。

分析・課題

○実施主体の中心メンバーが様々な事情で参加が難しくなっていることもあり、今後の事業実施は見送ることとした。

○参加していた団体には、「まち活フェスタ」等への参加の案内を行っていききたい。

2 ちょうふチャリティーウォーク

結果の概要

○新型コロナウイルスの様々な規制の緩和を受け、対面で歩くイベントを3年ぶりに実施した。寄付文化の醸成を目的に、感染防止対策を行い、平成20年の初回から数えて第14回目の実施。企画、運営は、引き続き実行委員会。

○実行委員会で、実施方法を検討した結果、以前に実施したハロウィンダンスフェスは実施せず、調布駅前広場から深大寺までのチェックポイントを巡るウォーキングイベントとして企画することになった。

実績等

(1) ちょうふチャリティーウォーク 2022

開催日	10月22日(土)		
コース・会場	コース(約5キロ) 調布駅前広場(スタート) → 布多天神社 → サレジオ教会 → 深大寺 → 深大にぎわいの里 → KDX 調布ビル → 調布駅前広場(ゴール)		
参加者	495人	参加費	高校生以下 100円
スタッフ	50人		大人 500円
主催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		

後 援	調布市、調布市教育委員会、公益社団法人調布市体育協会、 調布市公立学校 PTA 連合会
チャリティー 金額	206,537 円（えんがわファンドへ）

分析・課題

- 3年ぶりのウォーキングイベントの開催となり、参加者数がどの程度になるか心配したが、従前の形の開催時と変わらない参加者数となった。イベントチラシを、小学校に配布できたことが参加者を呼び込めた大きな理由と考えられる。
- 参加者の満足度が非常に高く、コロナ禍で楽しめるイベントを求めているように感じられた。
- 多くの企業や団体からの協賛金で運営費が賄われたことで、市民が中心となったイベントの自立が進んだと言える。

3 調布市市民プラザあくろす内の連携

結果の概要

- 調布市市民プラザあくろすにある、男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者(株)セイウンと連携し、あくろす全体での取組の調整や情報共有を行った。

実績等

- あくろすの3センターと指定管理者で構成される「あくろす連絡会議」（毎月1回）に出席し、情報交換を行った。会議とは別に必要に応じて、情報交換を行った。
- 6月に調布市長選挙における期日前投票所の設置について、指定管理者および選挙管理委員会と調整を行い、期日前投票所の設置・運営に協力した。
- 感染対策についての情報共有を行った。
- 指定管理者の更新時期にあたることから、指定管理者の仕様書についての検討に参加した。

分析・課題

- 施設の老朽化も目立ち、修繕について陳情や協議は行っているが、調整に時間を要している。引き続き利用しやすい環境保持のため、調整を進めていく。
- 令和5年度からあくろすの指定管理者が変わることが決まり、4月以降新たな業者が入ることから、年度当初は混乱が予想される。

4 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

結果の概要

- ブロック内の他地区センターと事業共催することにより、連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的で多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。
- 共催企画として、令和元年の台風19号の浸水被害を受けた染地地域のまち歩きを開催。災害ボランティアセンター立ち上げの経緯等の振り返りと共有を行った。

(1) 共催事業実施内容

名 称	令和元年台風19号を振り返る防災まち歩き
日 時	令和4年8月24日(水)10時~13時
会 場	調布市染地地域及び多摩川住宅集会室
内 容	令和元年の台風19号で浸水被害にあった地域のまち歩きを行うとともに、当時のセンターの判断や地域との連携について振り返りと共有を行った。

(2) 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実施回数	3回
参 加 者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定NPO法人難民を助ける会 [AAR JAPAN]、東日本大震災支援全国ネットワーク [JCN]
内 容	共催事業内容の検討や各センターの情報交換等

分析・課題

〇3回の連絡会を実施し、ブロック社協での災害時協定の締結に向けた検討、情報共有等を行い、連携を深めることができた。

5 その他

結果の概要

〇様々な団体の活動に参加・協力をし、連携を深めた。

実績等

日時	団体名	内容
4月23日(土)	西部地域福祉センター	福祉避難所開設訓練
5月10日(火)	緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会	定例会
6月16日(木)	包括支援センターゆうあい	地域ケア会議
6月30日(木)	包括支援センターときわぎ国領	地域ケア会議
7月1日(金)	包括支援センターつつじヶ丘	地域ケア会議
7月12日(火)	緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会	定例会
8月9日(火)	包括支援センターちょうふの里	地域ケア会議
10月9日(日)	東京都	防災ボランティアのつどい
11月4日(金)	西部公民館	文化祭
11月8日(火)	緑ヶ丘・仙川まちづくり協議会	定例会
11月19日(土)	染地小地区協議会	住民懇談会
11月28日(月)	包括支援センターつつじヶ丘	地域ケア会議

11月29日(火)	包括支援センターちょうふの里	西部ネットワーク会議
5月12日(木) 5月15日(日) 5月20日(金) 5月21日(土) 5月22日(日) 5月28日(土) 5月29日(日)	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	1・2年生授業「ボランティア論」の 講義及び市民活動体験先コーディネート
12月17日(土)	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	看護対象論 授業協力
12月19日(月)	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	看護対象論 授業協力

第6 人材育成、学習支援

1 出前ボランティア講座の実施

結果の概要

○小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」の研修等に対応した。

実績等

出前回数	21回	出前先	小学校	13回
受講生	延べ1,489人		中学校	1回
派遣スタッフ	延べ72人		高等学校	1回
開催講座数	45講座 (内訳：手話12、視覚障がい者ガイド8、点字13、車いす12、その他1)			
			関係機関	6回

分析・課題

- 令和4年度は、新型コロナウイルスの感染者数が、減少と増加を繰り返す一年となり、出前講座の実施も例年通りに戻ることは難しい1年であった。
- 令和3年度同様、出前講座は主に当事者からのメッセージを伝える講話のみとし、体験を希望する学校に向けては、事前に教員に向けて講座を実施し、児童生徒に対しては、教員が指導する方法をとった。
- 例年のような「体験」と「講和」での実施を希望する学校もあったので、状況を見つつ、スタッフが実施する「体験」を取り入れた講座を数回実施した。
- タブレットは、市内の小中学校で児童一人ひとりに普及されてはいるが、リモートによる出前講座実施は無かった。

2 都立高等学校における教育活動支援業務の実施

結果の概要

平成19年度からは、教科「奉仕」授業の一環として、また平成28年度からは、それを発展的に統合した新教科「人間と社会」という必修教科の授業として、出前講座を実施している。

実績等

(1) 実施内容

講演会：テーマ「障がい理解について ～視覚障がい当事者からのメッセージ～」

(2) 会場校・対象者

・都立調布北高等学校 第1学年 全6クラス 239人

(3) 実施状況

○従来、1学年6クラスを対象に手話、車いすの講座を実施、点字、ガイドヘルプ講座は、どちらか1講座を選択する方法で実施していた。

○今回「従来の方法に戻し実施したい」と依頼を受けたが、感染者数が増加し始めたタイミングで、実施時期が12月、インフルエンザの感染拡大も懸念される時期となっていた為、令和3年度同様、1年生全員を対象にした講演会形式で実施した。

分析・課題

○全体講演会では、講話を聞くだけではなく、生徒数名が舞台上でガイド体験を実演したり、書画カメラを使って普段の生活を紹介するなど工夫した。

また、視覚障がいでも、スマホを活用できる事、そのためのアプリが色々ある事を紹介した。

○事前学習として、NHKドキュメント番組「見えない人の世界」や、東京都福祉保健局から発信の視覚障がい者への理解をテーマにしたYouTubeを生徒たちが視聴して、それに対する質問も事前に送ってもらった。

○学校側が事前学習を取り入れたり、講座で聞くだけではなく、視覚的な情報、一部疑似体験を取り入れた事により、こちらから発信したメッセージが、より生徒に届いたように感じた。

3 調布サマーボランティア 2022

結果の概要

○東京ボランティア・市民活動センターが実施する「夏の体験ボランティア」キャンペーンは中止となった。

○調布市独自のボランティア体験プログラムとして『調布サマーボランティア 2022』を実施。

○ボランティア体験プログラムを中心とした26の体験プログラムを実施した。

○予定していた定員を超える申込、問い合わせがあったため、体験プログラムを追加した。

○ガイダンス用動画を作成。集会形式ではなく、参加者全員に事前面談と動画視聴によるガイダンスを実施した。

○ボランティア活動当日には職員が活動先を訪問し、振り返りに同席しフォローアップを行った。

○参加者は、自身の活動の振り返りとしてGoogleフォームで活動報告を提出。活動先へのフィードバックとした。

○調布サマーボランティア活動報告BOOKを作成し、体験者、団体・施設両者のメッセージを掲

載。団体・施設は体験者からのメッセージを通じて体験者の思いを知ることができ、体験者は自身の活動を振り返る機会となった。

ボランティア体験プログラム実績等

申込み	期 間	令和4年6月27日（月）～7月12日（火） 9時～17時
	内 容	・ボランティア体験プログラム
参加者人数及び活動別内訳	参加者総数	83人（男性 19人 女性 64人）
	年齢層内訳	中学生 37人 高校生 37人 大学生（短大含む） 6人 社会人 3人
協力団体・施設	団体 （寄付受付を含む）	内 訳
		高齢者関係 1団体
		障がい者（児）関係 7団体
		子ども関係 4団体
	その他 14団体	
期間	体験期間	令和4年8月1日（月）～8月31日（水）

分析・課題

- 感染症対策を行いながら実施した。体験期間の新型コロナウイルスの流行が拡大した。罹患のため活動に参加できない、または振替をおこなった参加者がいた。
- ボランティア保険加入について、現金取り扱いを止めたことにより、学生1人では、振込み手続きや加入ができない等の混乱が見られ、手続きが煩雑となった。
- これまで参加のなかった学校からの参加申込みがあった。
- 昨年度に続くリピーター参加があった。
- プログラム終了後に、活動先団体でボランティア活動を継続した方が複数いた。
- プログラム後のアンケートでは、プログラムの評価について「満足」と回答した割合は94%、「ボランティアを継続したい」をしないと回答した割合は81%であった。
- 活動報告BOOKを、すべての参加者および活動先に送付。次の活動につながるよう動機づけを行った。また、市内中学、高等学校の学校長宛へも送付し、センターの取組について周知する働きかけを行った。

第7 職員の派遣・研修 他

1 他団体等への職員派遣

- 関係機関の各種会議及び講座、研修等に職員の派遣を行った。

実績等

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
4月13日（水）	事務局連絡会議・夏ボラ担当者会議・	東京ボランティア・市民活動センター

第2部 ボランティア・市民活動の推進

	災害Vo 担当者会議 (Zoom 会議)	
5月12日(木)	東京慈恵会医科大学看護学科 ボランティア論講師	東京慈恵会医科大学看護学科
6月3日(金)	北多摩南部ブロック VC 担当者会議	北多摩南部ブロック
6月15日(水)	図書館ボランティアガイダンス講師	調布市中央図書館
6月17日(金)	センター長会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
7月6日(水)	北多摩南部ブロック VC 担当者会議	北多摩南部ブロック
7月11日(月)	調布福作第三者委員	旭出調布福祉作業所
7月15日(金)	8市市民活動連絡会 (Zoom 会議)	8市市民活動連絡会
7月19日(火)	当事者団体等に関する情報交換会	東京ボランティア・市民活動センター
8月8日(月)	自立支援協議会ワーキング	調布市障害福祉課
8月24日(水)	北多摩南部ブロック防災まち歩き	北多摩南部ブロック
9月9日(金)	災害ボランティアセンター視察同行	調布市総合防災安全課
9月15日(木)	TVAC 新任職員研修振り返り	東京ボランティア・市民活動センター
10月20日(水)	事務局連絡会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
10月25日(火)	自立支援協議会ワーキング	調布市障害福祉課
12月16日(金)	自立支援協議会ワーキング	調布市障害福祉課
1月17日(火)	生涯学習推進協議会	調布市文化生涯学習課
1月19日(木)	事務局連絡会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
2月3日(金)	8市市民活動連絡会	8市市民活動連絡会
2月9日(木)	「ボランティアを始めよう」講師	地域デビュー実行委員会 生涯学習情報コーナー
2月15日(水)	生涯学習推進協議会	調布市文化生涯学習課
2月16日(木)	センター長会議	東京ボランティア・市民活動センター
2月27日(月)	自立支援協議会ワーキング	調布市障害福祉課
3月10日(金)	市民活動助成団体勉強会	東京ボランティア・市民活動センター
3月22日(水)	ふふ富士見 ボランティアガイダンス講師	ふふ富士見
3月22日(水)	北多摩南部ブロック VC 担当者会議	北多摩南部ブロック
3月25日(土)	ふふ富士見 ボランティアガイダンス講師	ふふ富士見

2 職員研修

○相談支援等のレベルアップを図るため、それぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加したが、昨年度のように柔軟なテレワーク等による研修参加は推進できなかったため、参加実績は減少した。

実績等

会議・講座名称	参加人数	主催団体
子ども食堂関係者向け学習会	1	東京ボランティア・市民活動センター

北多摩南部ブロック社協職員研修	1	北多摩南部ブロック社協
首都直下地震の被害想定改定の勉強会	1	東京ボランティア・市民活動センター
福祉人材センターオンデマンド研修	4	調布福祉人材センター
魅せる！チラシデザイン	1	職員連絡会
東ボラボランティアフォーラム	1	東京ボランティア・市民活動センター
東社協運営管理研修（個人情報保護）	1	東京都社会福祉協議会
中間支援組織のための「NPO」講座	1	東京ボランティア・市民活動センター
参加人数合計	11	

3 視察対応

○他地域及び各種団体の見学依頼に随時対応した。

実績等

日 程	団 体 名 等
5月18日（水）	こころの健康支援センター利用者見学受入れ
7月20日（水）	他社協新任職員研修受入れ
8月24日（水）	北多摩南部ブロック防災まち歩き（染地地域）受入れ
8月25日（木）	こころの健康支援センター利用者見学受入れ
9月 7日（水）	調布市福祉総務課 社会福祉実習生受入れ
9月15日（木）	江東区社協視察受入れ
9月22日（木）	こころの健康支援センター利用者見学受入れ
1月18日（水）	東村山市視察受入れ
2月24日（金）	武蔵野市視察受入れ

第8 調査・研究

結果の概要

○令和2年度実施した市民活動に関する調査【団体編】【個人編】の集計と分析を行い、結果を市民活動支援センターホームページへ公開した。

分析・課題

○調査の結果、平成27年度に実施した調査の結果と変わらず、依然として市民活動支援センターの認知度が低いことがわかった。様々な取組みや情報発信、相談支援等を行っていることを知ってもらうため、今までとは異なる情報の発信や届け方を検討し実践する必要がある。

第9 災害対策・支援（重点項目）

1 調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

結果の概要

- 調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」に基づき、検討を進めた。
- 協定締結から15年以上が経過した調布市と調布社協の「災害時におけるボランティア活動に関する協定」について見直し作業を進めているが、再締結には至っていない。

分析・課題

- 災害ボランティアセンターの設置・運営については、過去の経験を活かし、水害、地震等の自然災害発生を想定し、より具体的な内容になるよう、さらに調布市関係部署と協議を進め、協定書の修正を行い、再締結が必要になるとともに、「設置・運営マニュアル」を作成する必要がある。
- 災害ボランティアセンターの運営に協力していただける市民、企業に向け、災害ボランティア養成講座等の実施を継続的に行っていく。

2 調布市災害ボランティアセンター

（旧調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

結果の概要

- 調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在もサイト上やフェイスブックで情報を交換している。
- 災害ボランティア養成講座等、災害に関わるイベントの情報提供を行った。
- 当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間1回のセキュリティーチェックを実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

分析・課題

- 災害時にすぐに運用が開始できるように、最低限のサイトの維持管理は行っている。必要な問い合わせ対応等は市民活動支援センターホームページで対応する。
- サイトの脆弱性については、サイトの安全性を担保する必要性から、常に変化する課題へ対応するため、年間で複数回のチェック及び更新作業を継続的に行っていく必要があるが、予算の都合上1回の実施となっている。

3 災害ボランティア養成講座の開催

結果の概要

- 延べ35人の参加があり、昨年度の倍以上の参加だった。
- ペットの避難というテーマだったこともあり、これまでセンターが主催する講座等への参加がなかった方の参加を得ることができた。

実績等

災害ボランティア養成連続講座 2022				
日時	会場	内容	講師	参加人数
8月29日(月) 19時～20時半	市民プラザ あくろす2階 会議室1	調布市が計画する災害 時のペット避難につい て	調布市 総合防災安全課 職員	11人
9月15日(木) 19時～21時	市民プラザ あくろす2階 会議室1	地域が準備しているペ ットの避難について	すぎもり地区協議会 大町忠敏氏	9人
9月30日(金) 19時～21時	市民プラザ あくろす2階 会議室1	地域が準備しているペ ットの避難について	NPO 法人アナイス 平井潤子氏	8人
10月29日(土) 9時～15時	多摩川河川敷総合 防災訓練会場及び 調布市役所前庭	調布市総合防災訓練ボ ランティア参加及び車 いす乗車体験	市民活動支援センタ ー職員	7人

分析・課題

- 調布における災害発生時に活動できる人材の発掘・育成につなげていくためにも、様々なテーマ設定を行いながら毎年開催していきたい。
- 地域性に合わせたテーマ設定や、新たな興味・関心を生むテーマ設定など、検討が必要である。

4 調布市総合防災訓練への参加結果の概要

- 調布市総合防災安全課と連携し、調布市総合防災訓練の会場に「災害ボランティアセンター」の設置を行い、災害ボランティア養成連続講座の受講者が、ボランティアとして参加した。
- 災害時要支援者訓練として、調布市役所前庭を活用した車いす体験訓練も実施した。

分析・課題

- 職員として、災害ボランティアセンターでの、受入から、活動、報告までの流れを大まかに確認することができた。
- 各地域で行われる「防災訓練」とも連動し、より多くの市民に参加いただける工夫が必要。
- 頻発する自然災害に備え総合防災訓練をより実践的な動きにつなげていくためにも、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアルの作成について検討の必要がある。